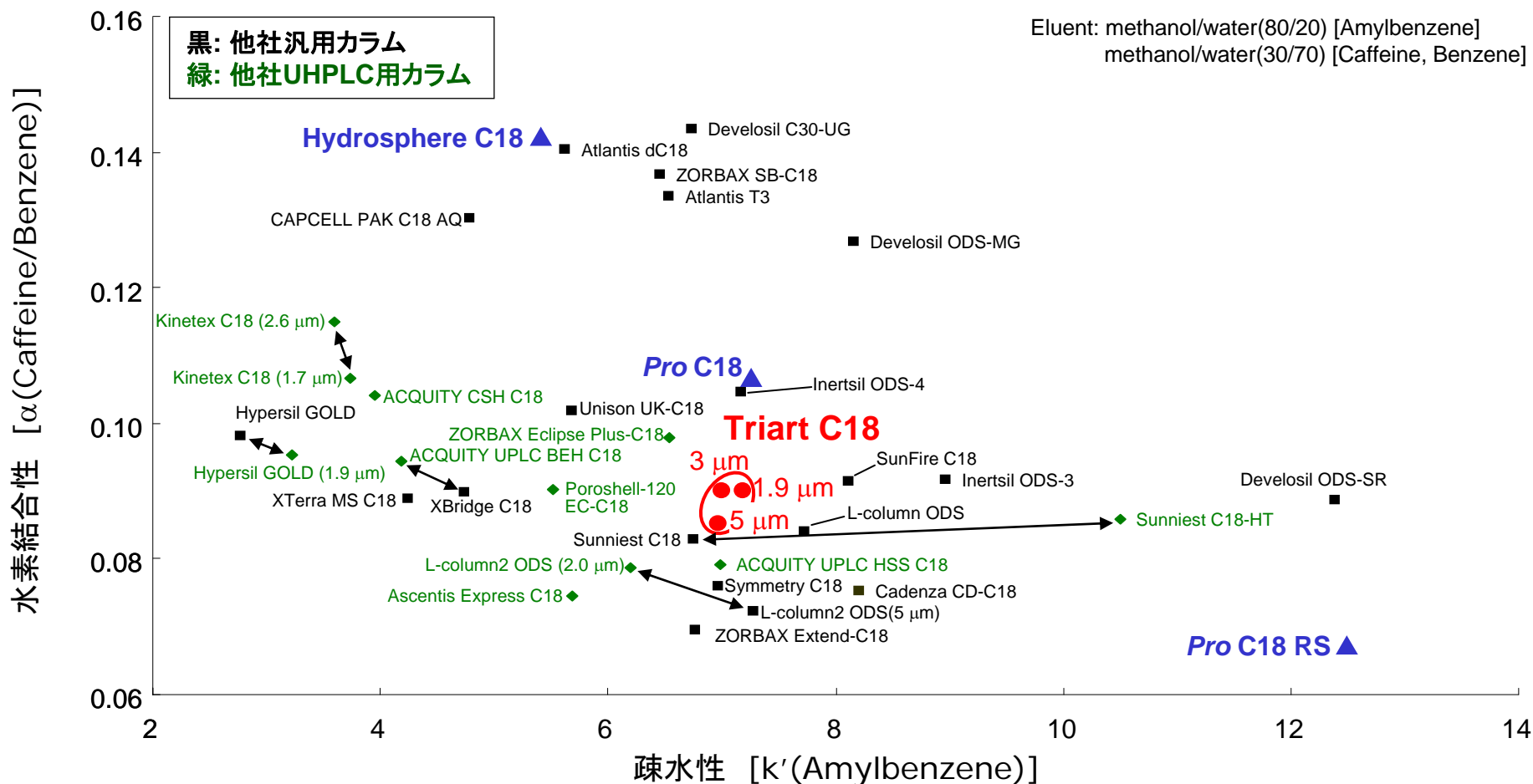


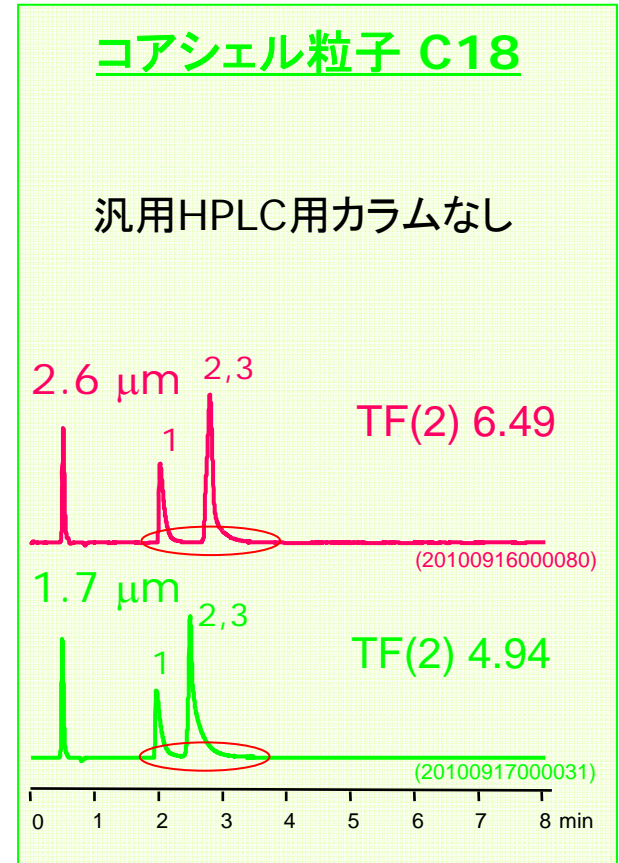
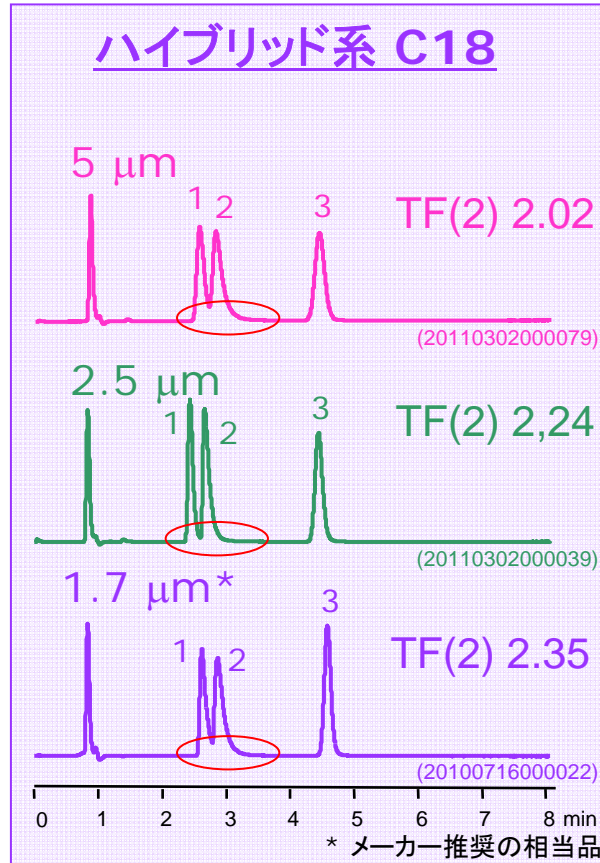
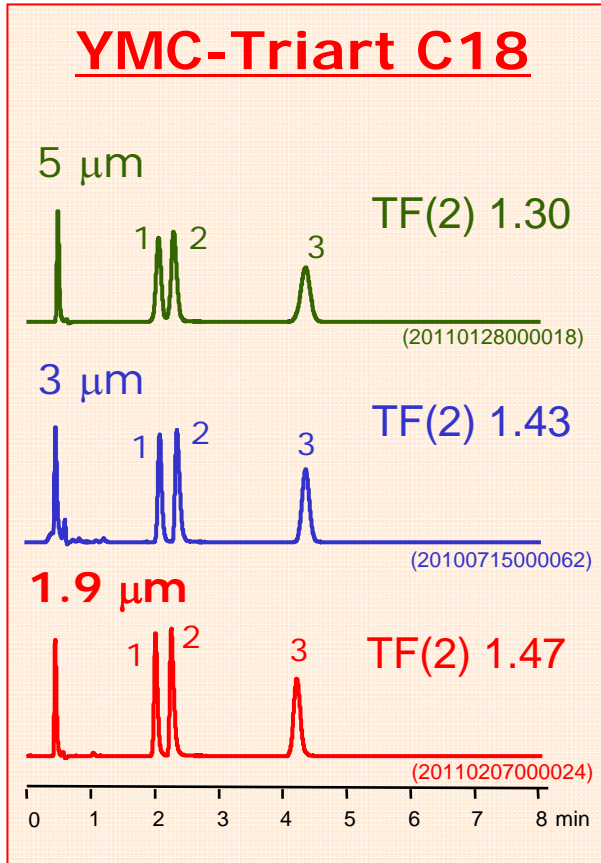
粒子間での優れた分離再現性 (1) 市販主要C18カラムの選択性プロット



Triart C18は1.9, 3, 5 μmの異なる粒子間で同一の選択性を示します。
また、他社UHPLC用カラムの多くは疎水性が低い傾向がありますが、Triart C18は従来汎用カラムと同様のバランスの取れた分離特性を有しています。

粒子間での優れた分離再現性 (2)

塩基性化合物の分離比較



Column : 50 X 2.0 mmI.D. or 2.1 mmI.D.
 Eluent : 20 mM KH_2PO_4 - K_2HPO_4 (pH 6.9)
 /acetonitrile (65/35)
 Flow rate : 0.2 mL/min
 Detector : UV at 235 nm
 Temperature : 40°C
 Sample : 1. Chlorpheniramine(塩基性)
 2. Dextromethorphan(塩基性)
 3. Propyl paraben (I.S.)

表面修飾の差が現れやすい塩基性化合物などのイオン性化合物の分析においても、Triart C18は粒子径によらずピーク形状が同一です。

※TFは、デキストロメトルファン(ピーク2) 単独での値